



行方市玉造霞ヶ浦湖岸——— 撮影者／香取逸美

土浦協同
病院新聞

筑波嶺

第64号

発行所／土浦協同病院
おおつ野四丁目1番1号
発行人／家 坂 義 人
題 字／登 内 眞

新 病 院 が 開 院 し て

新病院がオープンして未だ、2ヶ月足らずですが、3月1日の開院日のことは懐かしくさえ思われます。午前7時半に冷たい風が吹く正面玄関で、簡単な開院の挨拶、テープカットを含む開院セレモニーを行いました。当日午前、駐車待ちの車が院外の道路に延々と連なり、広いと思っていたロビーには、開院を待ち切れないといった早朝から集まった来院者に対応するスタッフが右往左往するといった光景が予想されたとは言え、目の当たりにされた混雑は予想をはるかに上回るものでした。新たに導入された再来受付機に患者さんが戸惑い、総合受付・ブロック受付といった新システムへ事務職員が戸惑ったこと以外に、オープン早々から予想を上回る多数の紹介患者・新患者が訪れたことも、喜ばしい混雑の要因でありました。広大かつ贅沢なつくりの駐車場についても、初日には早朝から多くの患者が殺到して、病院外の道路まで車が延々と列をなすといった混雑まで出現しました。病院職員の全力投球と開院初日から本所職員のサポートにより急場を切り抜けた後、現在は当初の混雑が嘘のように、極めて整然と運用がなされています。

新病院では全診療部門において施設の拡充と装備の充実が図られ

病 院 長
家 坂 義 人

ました。開院当初から旧病院ではトータル10室であった手術室は新病院では18室中16室、カテ室は8室中6室の稼働を可能とするようフル装備が施されました。これらの手術室・カテ室の完全稼働のため、看護部・臨床工学部・放射線部などからスタッフの配置に全面的強化が得られました。その効果が発揮され、先ずは旧病院での手術・インターベンション件数の30〜40%程度の増加がみられています。対象となる紹介患者の増加も背景にあり、手術予定入院予約患者数は、現在、益々、増加しています。内視鏡検査ブースが9室に増加され、検査・治療件数の増加に繋がっています。3月期に入院診療単価が77000円台という、かつて経験されたことのない高額を示しています。外科においては手術患者用ベッドが満床のため、

女性患者は産婦人科のベッドを利用し、手術件数の増大への対応を行っています。新病院では規模の大きなER・ヘリポートの設置の効果も加わり、集中治療部の全39床については、オープン当初よりフル稼働しています。救命救急集中治療・術後集中専門医を各1名配属し集中治療強化を行いました。県下随一の周産期・新生児・小児科医療についても、総合周産期母子医療センター拡充、内科小児外科合同の小児医療センターを設け強化を行いました。PET・CT・リニアックを導入し地域がんセンター(100床)、化学療法センター拡充、緩和ケア病棟を設け先進的がん診療の強化を行いました。予防医療センターについても内視鏡室拡充、PET・CT導入により大いに強化を致しました。



◎学会 海外出張報告① 中国・上海

循環器内科

久佐 茂樹

昨年12月4日から6日まで上海市(中国)にて開催された、Annual International Congress of Cardiology という学会に参加してきましたので御報告申し上げます。心臓病についてそれぞれの分野別に、旬なトピックにつきプレゼンテーションを行う学会でした。この度は昨年初めに上梓された論文につき、学会よりプレゼンテーションの依頼があり行つて参りました。心房細動患者において、脳梗塞の原因となる血栓の多くは左心耳で形成され、その血流速度が血栓形成の危険因子であることが知られております。論文では、持続性心房細動に対するカテーテルアブレーション治療後に洞調律を維持している患者様の左心耳血流速度を、慢

◎学会 海外出張報告② アメリカ・サンディエゴ

腎臓内科

小原 由達

2015年11月にAmerican Society of Nephrologyが主催する国際学会、Kidney Week 2015 (@ San Diego) に、ポスター発表を行いました。演題名は「Granulomatous interstitial nephritis caused by T-cell Lymphoma」です。急性間質性腎炎の原因がT-cell Lymphoma (Peripheral T-cell Lymphoma) であつたという珍しい症例のレポートです。急性間質性腎炎の鑑別としてLymphomaも忘れてはならないという点を強調して発表しました。海外での発表は初めてで、そもそも、海外旅行もほとんど行つたことが無かつたため、一人でアメリカまで行くということは私

性期の外来経過観察中に計測し、その予後規定因子を検討しました。私は、家坂院長の御推薦により昨年8月まで2年間、米国ニューヨークに留学しておりました。また、20分と比較的長めの口述時間を頂戴したこともあり今回の学会は、自分の英語力の変化を試す良い機会と感じておりました。中国での開催にも関わらず、殆どが流暢な英語を話す欧米の医師が発表しており、緊張感を持つて臨みました。結果としては、留学した2年前とは異なり、自分の思ったことが英語で出てくる瞬発力と度胸が

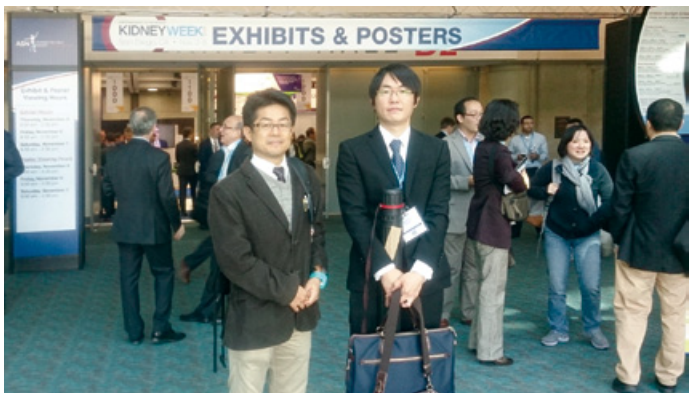
ついていることを確認でき、大変貴重な経験になりました。私にとって論文作成は苦しいものですが、自分の仕事を形に残し残し表出することから得られるものは多いことを実感しております。今後とも忙しい臨床にかまけることなくこのような視野を持ち続けていきたいです。



蘇州 (山塘街)

にとつて未だかつて無い大冒険でした。航空チケットの性と名前が逆になっていることに出発の2週間前に気がついて大騒ぎしたり、到着したサンディエゴ空港で銃撃戦があつたりと、かなり刺激的なことがいっぱいありました。英語での発表はしどろもどろでしたが、なんとか通じるものなのだと自信がつきました。ただ、それと同時にこんな英語力のままでは駄目だという思いも強まりました。今後も精進してグローバルな医師をめざしたいとほんの少しだけ思いました。現在は英会話に通い始めています。最後に、国際学会への発表をご提案してくださり、丁寧に指導していただいた小林凡子先生や病理組織についてご指導いただいた鈴木恵子先生には、このような貴重な経験ができたことに

対して、この場をお借りして感謝いたします。



◎学会 海外出張報告③ アメリカ・サンフランシスコ

米国臨床腫瘍学会
消化器癌シンポジウムに参加して

消化器内科 江頭 徹哉

2016年1月21日〜1月23日まで、米国サンフランシスコにて開催されました米国臨床腫瘍学会消化器癌シンポジウム2016 (ASCO-GI) に出席してきました。

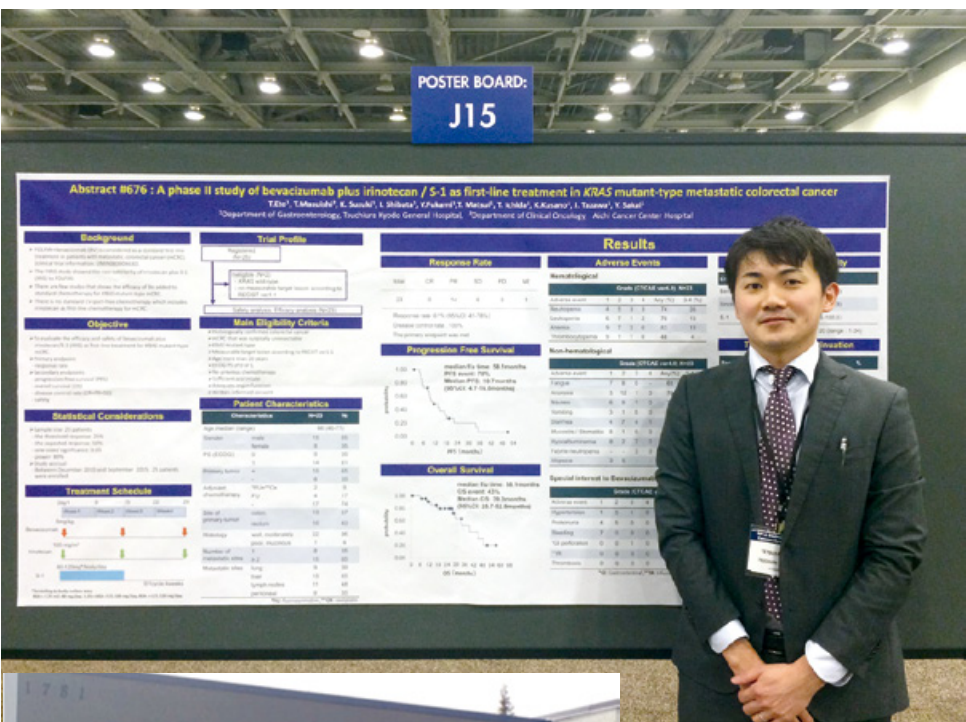
この会では、消化器内科や腫瘍内科に限らず、外科・放射線科の専門医やトランスレーショナル研究の研究者らが一堂に介して、消化器癌の治療に関して最新の情報交換が行われます。注目を集め

た演題として、「HER2陽性胃癌における二次治療としてのTDM1の有効性を検証するGATSBY試験」の結果が報告されました。結果は期待に反しnegativeな結果となり、標準治療を変えうる重要な試験であつたため、非常に残念な結果となりました。今回私は、当科で行いました「KRAS変異型切除不能進行・再発大腸癌における1次治療としてのイリノテカン+S-1+ペバ

シズマブ併用療法の第II相試験」について、ポスター発表をしました。いくつか質問も頂き、英語で回答する難しさや他施設の方がどのような点に注目しているのかといったことについて非常に勉強になりました。

学会期間中に、サンフランシスコより1時間程度離れたサンノゼへ足を運ぶことができました。サンノゼは私が、2〜7歳の幼少期を過ごした地であり、26年ぶりに足を運ぶことができました。住んでいた家もそのまま残っており、通つていた地元の小学校も見に行くことができました。小学校では受付に事情を話したところ、1989年の私が通学していた際のアルバムを出してきてくださり、7歳の自分を見つけることができました。非常に懐かしく、感慨深いものでした。

今回、ASCO-GIに参加させて頂き、非常に多くの刺激をもらいました。日々の臨床を頑張しつつ、学会での発表を続けていけるよう精進して行きたいと考えております。



●連載——第28回

DPCとベンチマーク

DPC評価委員会委員長
情報システム管理室 船越尚哉

4月から、新しい診療報酬の体系が適用されるようになりました。DPC/PDPSも新しい制度となりました。DPC/PDPSについて主な変更点を説明します。

病院群は、2年前同様Ⅲ群となりました。大学病院に準ずる病院であるⅡ群病院（140病院）になるには、一定の要件を満たす必要があります。9要件ありますが、当院は病床あたりの初期研修医数が旧病院900床に対して1名不足し、他の8要件は満たしたものの、Ⅲ群病院となりました。新病院は800床なので、現状Ⅱ群要件を全て満たした、事実上大学病院に準ずる病院と言えます。

急性期医療を担うべき病院としての機能を評価する、機能評価係数Ⅱという指標があります。この係数は、毎年見直され、包括部分の請求額に連動します。今年度当院の機能評価係数Ⅱは、0.1013であり、全国2番目に高くなっています。表1にその内訳、偏差値などを示します。なお、重症度係数は今回新規導入された係数であり、

包括部分に対して全国の平均的な医療資源投入量より多くの医療資源を投入せざるを得ない病院、言い換えればDPC点数表で評価できない重症患者の診療を評価する係数であり、当院は高くなっています。

今回の点数表では、副傷病分岐を伴う診断群分類が増加しました。一般的には副傷病ありは副傷病なしに比べ、日当点数は高く、定義日数が長くなります。副傷病を漏らさず記述する必要があります。また、入院時から合併症を伴う患者を多く診る当院には有り難い改定となりました。

今年10月までに病院指標を公開する必要があります。来年度から適用されるルールで、公開しない場合、保健診療係数が減算されます。公開が義務付けられる項目を表2に示します。

このようにDPC/PDPSは、精緻化や透明化が一層進んでいきます。

表1	項目	全国加重平均値	全国単純平均値(Ⅲ群)	全国標準偏差値(Ⅲ群)	当院値	当院偏差値
	保険診療係数	0.00804	0.00805	0.00005	0.00806	52
	効率性係数	0.00804	0.00725	0.00348	0.00921	56
	複雑性係数	0.00804	0.00835	0.00348	0.00926	53
	カバー率係数	0.00804	0.00592	0.00341	0.01818	86
	救急医療係数	0.00804	0.00794	0.00471	0.01323	61
	地域医療係数	0.00804	0.00652	0.00464	0.01772	74
内 訳	体制評価係数	0.00402	0.00350	0.00119	0.00506	63
	定量評価係数(小児)	0.00201	0.00142	0.00228	0.00719	75
	定量評価係数(小児以外)	0.00201	0.00159	0.00180	0.00546	72
	後発医薬品係数	0.00804	0.00812	0.00348	0.01038	56
	重症度係数	0.00804	0.00720	0.00483	0.01528	67
	合計	0.0643	0.0592	0.0124	0.1013	84

表2	1. 年齢階級別退院患者数	5. 脳梗塞の ICD10 別患者数
	2. 診療科別症例数トップ3件数 平均日数 等	6. 診療科別主要手術の術前、術後日数 症例数トップ3 パス
	3. 初発の5大癌の UICC病期分類別ならびに再発患者数	7. その他（DIC、敗血症等の請求率）
	4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等	

ヘリポートの運用について

救急科科長 荒木祐一

土浦協同病院新病院には、ドクターヘリや防災航空隊ヘリなどによる救急患者搬送の受け入れ、災害時の救難ヘリコプターによる患者搬送等に使用するため、地上型のヘリポートが新設されました。医療用ヘリポートとしては大型のヘリポートであり、ドクターヘリや防災ヘリのみならず、自衛隊や警察の運用する中型、大型ヘリの離着陸も可能な施設となっており、災害時などにも力を発揮すると思われま

新病院移転以来、すでに10件を超える搬送件数があり、交通事故などによる外傷、急性心筋梗塞や脳梗塞など緊急を要する救急搬送の受け入れを積極的に進めています。

ヘリコプターの離着陸時には安全確保のため、ヘリコプター周辺の立ち入り禁止など、皆様にご協力いただいております。今後も安全にヘリポートを運用するため、みなさまのご協力をお願いいたします。

予約センター・外来診療の流れ

医事課長(外来担当) 寺田恵子

3月1日の新病院オープンに合わせ、新たなシステムが多く取り入れられました。診療待ち時間の短縮を目指し、予約センターが新たに設けられました。移動当初は電話が殺到し、繋がりにくい日々が続き、多大なご迷惑をおかけしましたが、現在は解消されています。月曜日、連休明けの平日は時間帯によつては繋がりにくい時もありますが、少し時間をずらしていただければ繋がりますので、お手数でもおかけ直しをお願いいたします。診療科によつては、ご希望の日に予約

をお取りできないこともあり、ご迷惑をおかけすることもあります。スタッフがと相談していただきながら予約取得をお願いいたします。外来診療の流れについて、大きく変更になったところ、大きく変更になりました。まず1点目は、予約の患者様の再来受付機での受付です。診療予約の1時間前から受付ができます。2点目は支払いが自動支払機での精算になったことです。クレジットカードもご利用になれますので自動支払機をご利用下さい。



新しくなった検査部採血室

検査部副部長 池田聡

新病院になり採血室も新しくなりました。採血室は正面玄関を入つてすぐのエスカレーターを上がつた2階にあり、朝8時より業務が行われています。今度の採血室では自動受付機が設置され、スムーズに受付ができます。大きなモニターに採血案内が表示されわかりやすく、採血待ち時間の大幅な短縮もできるようになりました。また、昇降式エレベーターの導入により車椅子の患者様にも楽な姿勢で採血を受けられるよう工夫もいたしました。旧病院での採血室に比べると待合スペースも広くなり、待ち時間も少ない心地よい採血室を実現することができました。新しくなった採血室にぜひお越しください。

●平成28年度

辞令交付式

事務次長 湯原久之



新年度がスタートした4月1日、2階講堂において「平成28年度新採用職員辞令交付式」が行われ、医師73名(研修医33名を含む)、看護部100名、その他コメディカル46名、計219名の新採用職員

が、医療人としての新たな一歩を踏み出しました。辞令交付式で、真新しい制服に身を包んだ新採用者は、緊張した面持ちで辞令を受け取り、気持ちを新たにしました。

その後の家坂病院長の訓示では「新病院の開院とともに、多くの新職員の方々に入職して頂き、感謝と同時に、大変心強く感じています。当院は以前より県内トップの実績を有する、救命救急センター・総合周産期母子医療センターを運営しており、国内トップレベルにある先端的医療の実施により知られた診療科もあり、茨城県を代表する基幹病院です。新病院では、大型ヘリポート・規模の大きなER(救急救命室)・39床の救命救急センター集中治療部を設置し、更なる救命救急医療の強化を図りました。先進医療への取り組み強化では、カテ室3室を有する不整脈センター・カテ室3室を有する心血管センター、CT/MRI/アンギオ装置を有するハイブリッド手術室2室を含む全16室から成る手術部、更には9室の内視鏡室が設けられています。その他にも、高次救命救急集中医療、心血管疾患に対する高度カテーテル・インターベンション治療、内視鏡治療・鏡視下手術などの低侵襲高度医療、産婦人科・新生児科・小児科・小児外科が連携する周産期・小児科医療の更なる強化、PET・CT・リニアックの導入、緩和ケア病棟の設置など、総合的がん医療への取り組み強化も行いました。今後は、何時でも誰でも安心して受けられる、高次救命救急医療、高度先進医療と包括的地域医療の拠点病院を目指して、皆さんと共に頑張っていきたい。」との話がありました。

続いて、病院幹部職員の紹介と、各部署長から院内システムの説明を受け、早速配属部署へと分かれ研修にはいりました。

●土浦協同病院附属看護専門学校

第44期 看護学校入学式

入学式を迎えて



教務副部長

大川 和子

桜の見ごろを迎えた4月5日、第44期生120名(うち15名男子)の入学式が挙行されました。藤原秀臣学校長の入学許可を得て、こ

れからの学校生活へ向けた祝辞を頂き、新入生代表の五嶋樹莉さんは「あたたかな思いやりと危機的事態にも備えた知識と技術を持ち、患者さんと家族・友人の支えとなる看護師になるためにこの学校で学び大きく成長していきたい」と

自分の意志をはっきりとした言葉で述べられました。来賓、保護者、在校生の先輩に見守られ、慎ましくも堂々とした態度でこの石岡市三村での最後の式を無事終えることができました。

今年度は学校にとっても躍進の年であり、8月より土浦市おつ野に新学校移転いたします。地域社会に貢献し得る有能な看護実践者を育成するため、1学年定員80名から120名の増員受け入れや、看護教育のより充実を図る基盤づくり等、教職員一丸となって準備を進めて参りました。特に少子化の影響により学生確保が本当にできるのだろうか、学習環境を十分に提供できるのだろうか、不安の中で県内の高校に向き広報活動に尽力して参りました。広報活動を通して看護師を希望する高校生はまだまだ多く、さらに最先端技術を備えた実習施設である土浦協同病院の移転新築の関心の高さも実感するものとなりました。また、将来の職業意識が高く、自宅から近隣の進学を希望する傾向にあるなど、教職員の意識の変容にもなったと言えます。その甲斐あって、入学生の9割強が県内高校の現役生で定員の120名を迎えることができました。

入学後2週間が経過し、1クラス増えたことと年齢差のない特徴からか、友人と打ち解けるのが例年よりも早いように思われます。また、様々な役割も積極的かつ主体的に取り組み、同じ目標に向かって学習する姿が伺えます。教職員一同、この姿勢を維持し続けられるよう学習環境を整えながら支えていきたいと考えます。今後とも皆様のご支援よろしく願います。

専門看護師・認定看護師リレー便り

病気の子どものきょうだいたちのがんばりを高めるために

総合周産期母子医療センター新生児集中治療室

小児看護専門看護師・保健師主幹 亀山千里



近年小児看護において病気の子どものきょうだいたちも看護の対象と位置づけて、きょうだい支援が行われるようになりました。新生児集中治療室（以下、NICU）でも、きょうだいの面会が推奨されています。しかし、病気の赤ちゃんや未熟な状態で生まれた赤ちゃんは感染に対する抵抗力

が弱いことや、きょうだい自身が幼児期・学童期である特徴から椅子等段差があるところ等で落ちたりして受傷する危険があること等で、面会が制限されています。そのため、各施設で定められたルールできょうだいの面会を行っています。当NICUでは、マニュアルを作成し、先日新病院移転後初めてのきょうだいたちの面会を行いました。そのきょうだいたちからいただいた感想文には、「あえ

てどきどきした、ママはだっこしてずるかった」と書かれていました。きょうだいたちが思っていること、感じていることを知り、私達看護師をはじめ、医療者がきょうだいのことを気にかけているよと知らせてあげることだけでも、支援になるのではないかと思います。病気の子どものきょうだいたちのがんばりに応えられるよう、精進しようと思



兄弟めん会
○○○○○○○○○○
わたしは、4月4日に、はじめて○○○に会いました。今までにはしゃみみていて、大きいな。と思っていたけれど、しゃんより小さか。たず。手と足が小さくてつめがゆびの先に。てすごいなとおもいました。にこにこわら。ていてかわいいなとおもいました。まりけがう。すらはえていてすごいなとおもいました。家に帰。てきたら。こしたいたとおもいました。さいしょにうまれたときいたときに男の子か。女の子か。男の子かな？女の子か。と聞きました。わたしの頭の中では女の子だろなと思えました。でも男の子だ。たのび。くりしました。がうさごしで○○○に会ったけれどほんとうに。こする日がまちごうしです。たいいんにちかづいたのは、エエのみなさんのおかげだとばかり思います。これからはがんばってくだ

第1回 おおつ野 ロビーコンサート

ピアノと歌唱・夢のハーモニー

日時

平成28年6月28日(火)
15:00～16:00

会場

1階ロビー

出演

ピアノ：小松崎 純さん
(土浦市出身)歌：鬼束小百合さん
(かすみがうら市出身)

「2016新入職員研修」

看護部教育委員会 深澤 千映子

今年もフレッシュな看護職が86名スタッフとして仲間に加わりました。新人職員研修は看護部教育委員会が中心となって、4月1日の辞令交付式の後から4月7日までの5日間、新病院の新しい会場で行われました。研修内容としては、看護部の理念や看護倫理について考えたことを、グループで話し合い意見を出し合うことで学びを深めること。患者さんへの対応の仕方や出来事についての報告・連絡・相談の重要性について学びました。また、点滴管理や採血の研修では、人形の腕で実施した後、新入職員同士で実際に採血を行い患者さんの気持ちを体験しました。初めは緊張した面持ちでしたが、研修が進んでいく中

で、笑顔も見られ、仲間意識が芽生え同期としての心構えが出来て来たようです。

今後1年間は勤務時間内での盛りだくさんの研修が計画されている為、同期と共に成長していける様、委員会として支えていきたいと思



